

証券コード：6469



株式  
会社 **放電精密** 加工研究所

2022年2月期  
決算説明会資料

---

2022年 4月14日

## ■ 2022年2月期決算概要

- 2022年2月期通期 決算概要（連結） ……P. 3
- 2022年2月期通期 利益の変動要因 ……P. 4
- 事業概要 ……P. 5
- 2022年2月期 セグメント別概要 ……P. 6～
- 連結貸借対照表とCFの状況 ……P. 10
- 2022年2月期 設備投資・償却費・研究開発費 ……P.11

## ■ 中期経営計画2024の進捗 ……P.12～

## ■ 配当について ……P.29～

- 別紙①：2022年2月期 決算補足資料
- 別紙②：企業概要について

# 2022年2月期通期 決算概要 (連結)



※22年2月期計画：21年10月5日公表 業績予想

(単位：百万円)

	21年2月期 実績 ※	22年2月期 計画	22年2月期 実績	前期差 増減	計画差 増減
売上高	10,927	12,850	<b>12,976</b>	+2,049	+125
売上原価	9,298	10,130	<b>10,151</b>	+853	+21
売上総利益	1,628	2,720	<b>2,824</b>	+1,196	+104
販管費	2,193	2,219	<b>2,190</b>	▲3	▲29
営業利益	▲565	500	<b>634</b>	+1,199	+133
営業外損益	▲17	▲34	<b>▲27</b>	▲9	+7
経常利益	▲582	465	<b>607</b>	+1,189	+141
特別損益	▲2,670	997	<b>1,213</b>	+3,884	+215
税金等調整前 当期純利益	▲3,253	1,463	<b>1,820</b>	+5,074	+357
法人税等	▲416	487	407	+824	▲79
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲2,836	976	<b>1,413</b>	<b>+4,249</b>	<b>+436</b>

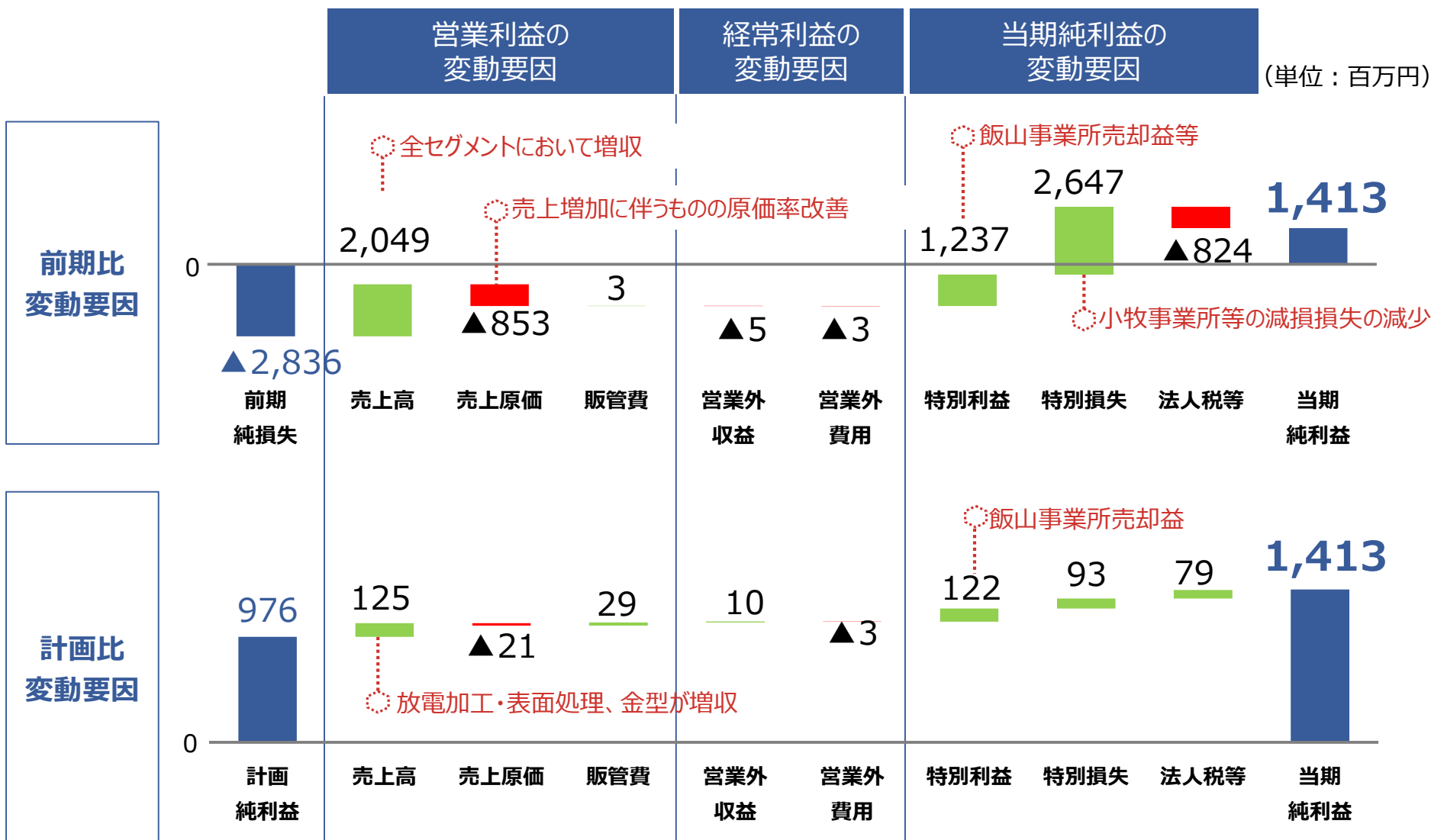
- 売上高 129億7千万 前年同期比 20億円増
- 営業利益 6億3千万 前年同期比 11億円増
- 親会社株主に帰属する当期純利益 14億1千万円

#### 2022年2月期連結業績予想および配当予想の公表履歴

2021年 4月 6日：2022年2月期通期連結業績予想の公表  
 2021年 7月 6日：2022年2月期通期連結業績予想の公表(第2四半期・通期の業績修正)  
 2021年10月 5日：2022年2月期通期連結業績予想の公表(通期の業績修正)  
 2022年 4月 5日：2022年2月期通期連結業績予想の公表(通期の業績修正)

※2022年2月期第1四半期に連結子会社の退職給付債務計算方法変更に伴い、2021年2月期に遡及処理を反映

# 2022年2月期通期 利益の変動要因



※計画比：21年10月5日公表 業績予想

※純利益：親会社株主に帰属する当期純利益

## 放電加工・表面処理

- 航空・宇宙 ~航空機エンジン部品
- 交通・輸送 ~自動車表面処理部品
- 環境・エネルギー ~産業用ガスタービン関連部品



## 金

## 型

- 住宅 ~アルミ押出用金型
- 交通・輸送 ~セラミックスハニカム用押出用金型



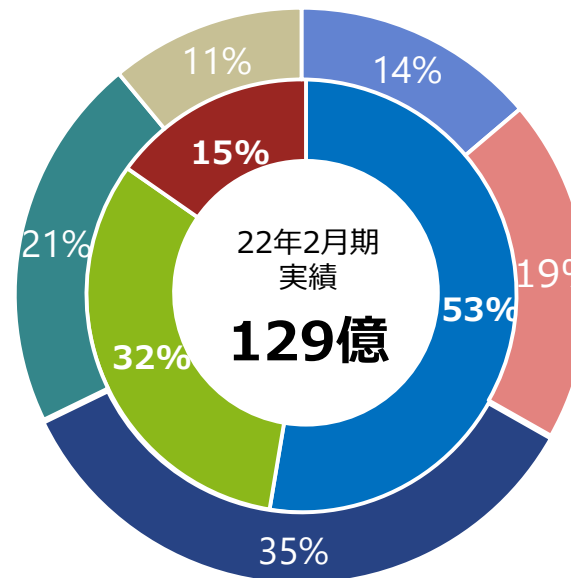
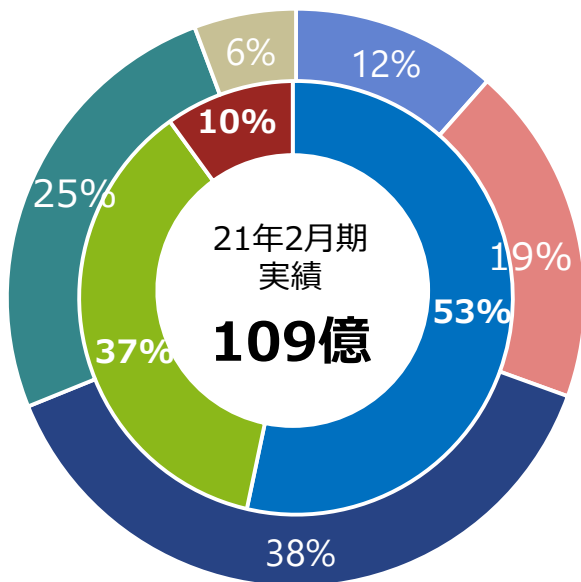
## 機械装置等

- 機械設備 ~プレス機・プレス付帯設備
- 交通・輸送 ~自動車関連プレス部品



セグメント別売上構成比率（連結）

■ 放電加工・表面処理 ■ 金型 ■ 機械装置等



■ 航空・宇宙 ■ 交通・輸送 ■ 環境・エネルギー ■ 住宅 ■ 機械設備

# 2022年2月期セグメント別概要



(単位：百万円)

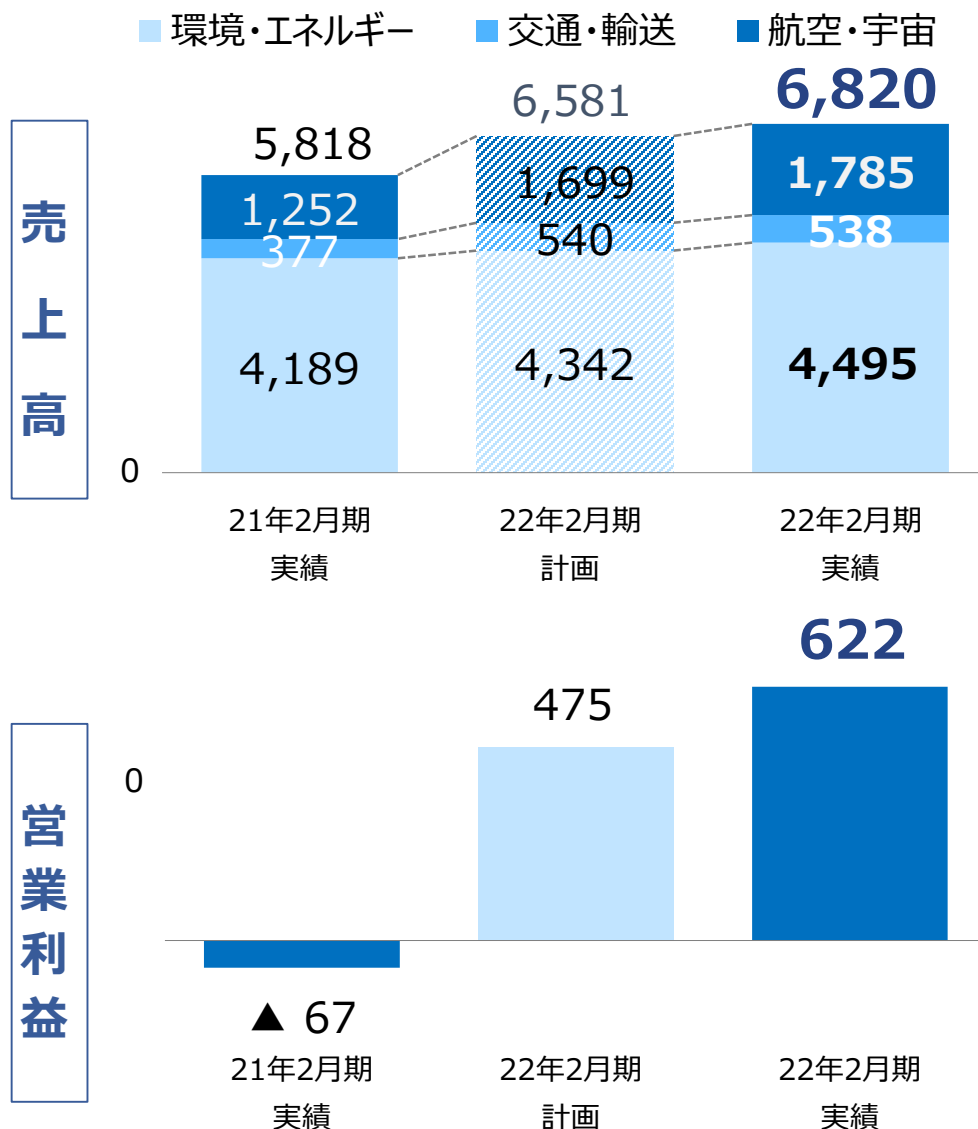
		21年2月期 実績	22年2月期 計画	22年2月期 実績	前期差 増減	計画差 増減
売上高	放電加工・表面処理	5,818	6,581	<b>6,820</b>	+1,001	<b>+238</b>
	航空・宇宙	1,252	1,699	<b>1,785</b>	+533	<b>+86</b>
	交通・輸送	377	540	<b>538</b>	+161	<b>▲1</b>
	環境・エネルギー	4,189	4,342	<b>4,495</b>	+306	<b>+153</b>
営業利益		▲67	475	<b>622</b>	+689	<b>+146</b>
売上高	金型	4,010	4,062	<b>4,216</b>	+206	<b>+154</b>
	住宅	2,779	2,709	<b>2,744</b>	▲34	<b>+35</b>
	交通・輸送	1,231	1,352	<b>1,471</b>	+240	<b>+118</b>
営業利益		345	632	<b>724</b>	+378	<b>+92</b>
売上高	機械装置等	1,097	2,207	<b>1,939</b>	+842	<b>▲267</b>
	機械設備	627	1,679	<b>1,430</b>	+802	<b>▲248</b>
	交通・輸送	469	528	<b>509</b>	+39	<b>▲18</b>
営業利益		63	324	<b>200</b>	+136	<b>▲124</b>
全社費用		▲907	▲932	<b>▲913</b>	▲6	<b>+19</b>
全社	売上高	10,927	12,850	<b>12,976</b>	+2,049	<b>+125</b>
	営業利益	▲565	500	<b>634</b>	1,199	<b>+133</b>

※22年2月期計画：21年10月5日公表 業績予想

# セグメント別詳細：放電加工・表面処理



(単位：百万円)



## 前期比 増収・増益

売上高：5,818 ⇒ **6,820** (+1,001)

営業利益：▲67 ⇒ **622** (+689)

## 売上高増減要因 (前期比 / 計画比)

### □ 航空・宇宙 (↑ / ↑)

◇前期比は、航空機エンジン部品で一部アイテムの生産量回復と、航空宇宙関連部品のAPNetサービスによるアイテム増で増収。

◇計画比は、航空宇宙関連部品の一部アイテムが想定を上回り増収。

### □ 交通・輸送 (↑ / ↓)

◇前期比は、自動車関連の表面処理部品が市場の回復に伴い増収。

◇計画比は、概ね計画通りに進捗。

### □ 環境・エネルギー (↑ / ↑)

◇前期比・計画比ともに産業用ガスタービン関連部品の受注が堅調に推移し、生産性も向上したことで増収。

## 営業利益増減要因 (前期比 / 計画比)

### □ (↑ / ↑)

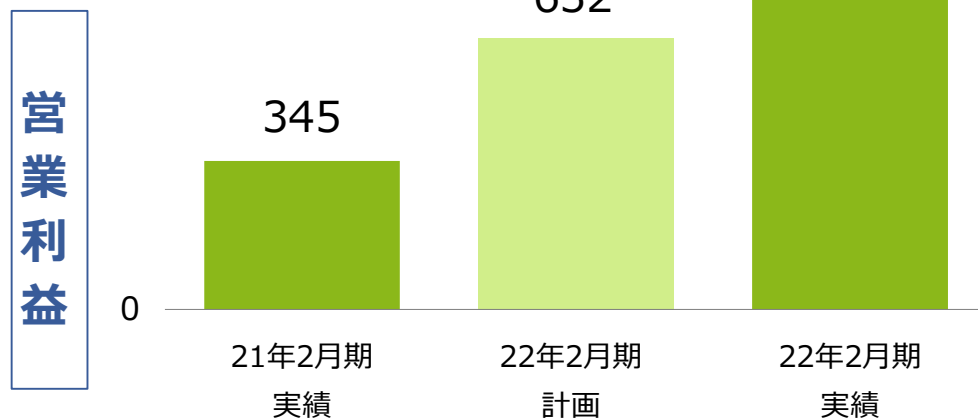
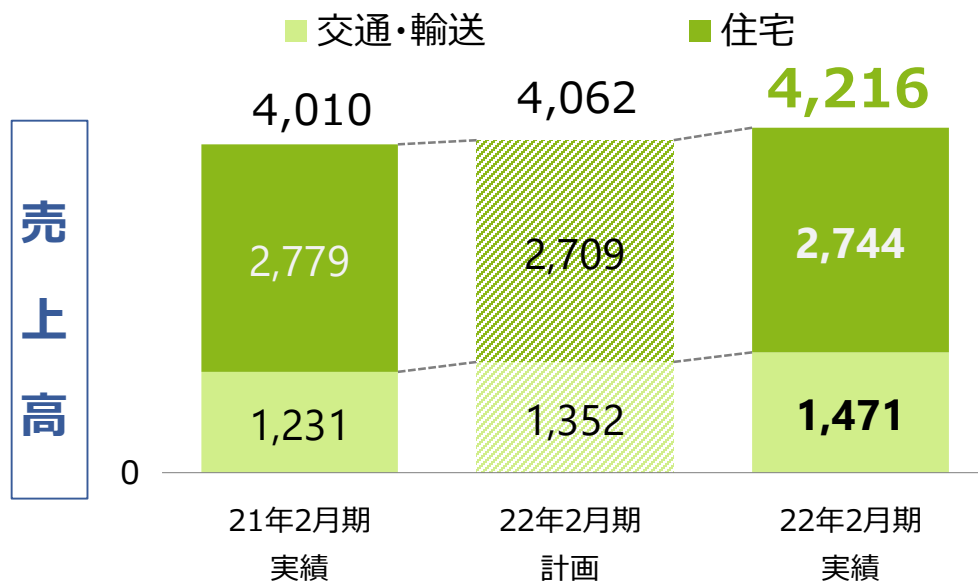
◇前期比は、増収効果と前期実施した航空機エンジン部品の減損処理により減価償却費が減少。

◇計画比は、生産体制の見直しなどの合理化の推進とコストダウン施策で収益性が改善。

# セグメント別詳細：金型



(単位：百万円)



## 前期比 増収・増益

売上高：4,010 ⇒ **4,216** (+206)

営業利益：345 ⇒ **724** (+378)

## 売上高増加要因（前期比 / 計画比）

### □住宅( ↓ / ↑ )

- ◇前期比では、コロナの影響などからアルミ押出用金型が前年同期並みに推移。
- ◇計画比では、産業品の需要が想定より回復したことで増収。

### □交通・輸送( ↑ / ↑ )

- ◇前期比・計画比ともに、自動車市場の回復に伴い増収。

## 営業利益増減要因（前期比 / 計画比）

### □( ↑ / ↑ )

- ◇前期比では、アルミ押出用金型の受注アイテムの見直しや合理化推進などの施策により収益性が改善。
- ◇計画比では、増収効果と改善効果によって増益。



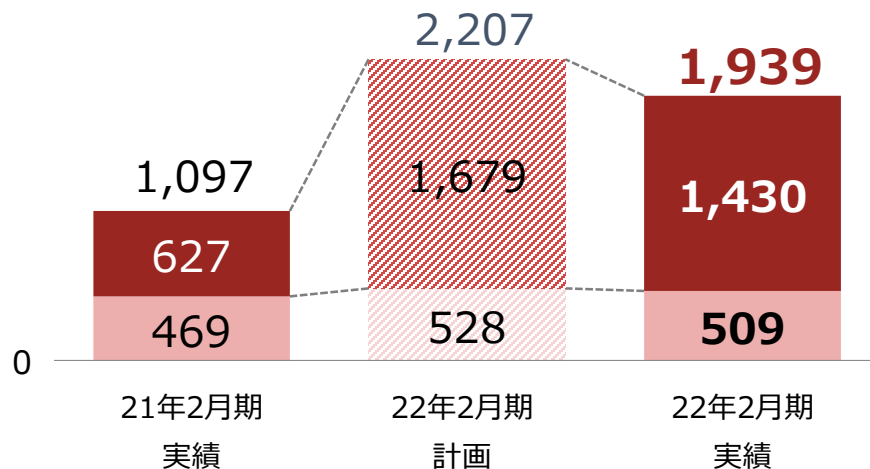
# セグメント別詳細：機械装置等



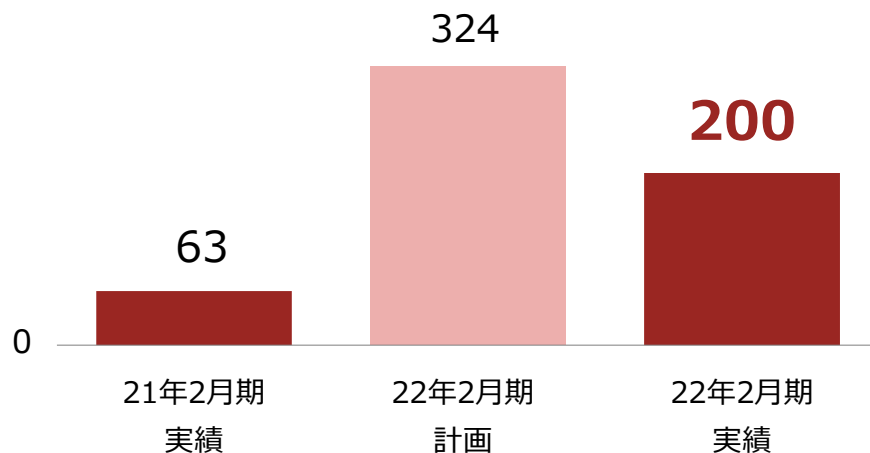
(単位：百万円)

■ 交通・輸送 ■ 機械設備

売上高



営業利益



## 前期比 増収・増益

売上高： 1,097 ⇒ **1,939** (+842)

営業利益： 63 ⇒ **200** (+136)

## 売上高減少要因（前期比 / 計画比）

- 機械設備( ↑ / ↓ )
  - ◇ 前期比では、前期に納入延期となった大型機含む設備販売実績の増加で増収。
  - ◇ 計画比では、機械販売の納入月ズレ等で減収。
- 交通・輸送( ↑ / ↓ )
  - ◇ 前期比では、自動車関連プレス部品が若干回復したことと、シェアリングサービスも堅調に推移したことから増収。
  - ◇ 計画比では、自動車関連プレス部品の生産計画が下振れしたことで減収。

## 営業利益増減要因（前期比 / 計画比）

- ( ↑ / ↓ )
  - ◇ 前期比では、増収効果による増益。
  - ◇ 計画比では、減収によるものと製造コスト増加等により減益。

## 連結貸借対照表

(単位：百万円)

<b>流動資産</b> <b>6,345</b> 前年比： +390	<b>流動負債</b> <b>4,841</b> 前年比： ▲389
<b>固定資産</b> <b>9,202</b> 前年比： ▲261	<b>固定負債</b> <b>4,449</b> 前年比： ▲758
	<b>純資産</b> <b>6,256</b> 前年比： +1,278

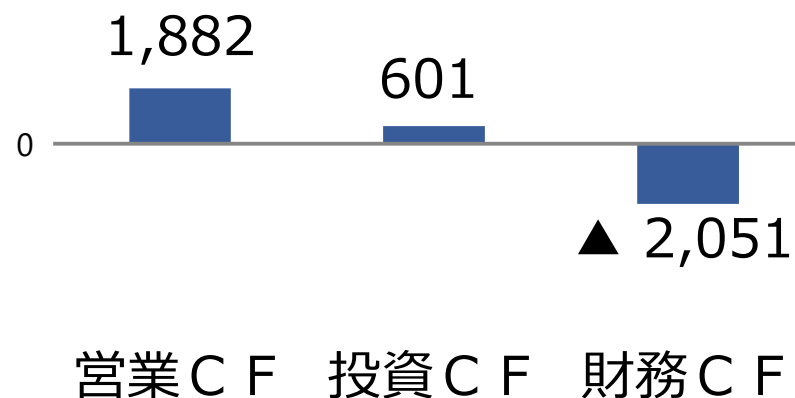
資産の部

負債純資産の部

## キャッシュ・フロー

(単位：百万円)

	21年2月期 実績	22年2月期 実績
現金及び現金同等物の期末残高	1,386	1,816



## 自己資本比率

2022年2月期	：	36.1%
2021年2月期	：	28.3%

## 設備投資／減価償却費

(単位：百万円)

	21年2月期 実績	22年2月期 実績
設備投資	1,265	<b>1,407</b>
減価償却費	1,150	<b>833</b>

## 2022年2月期 主な投資案件

- 2019年契約の大和事業所隣地土地取得  
※土地取得金額約9億
- 定期更新設備のみ実施

## 研究開発費

(単位：百万円)

	21年2月期 実績	22年2月期 実績
研究開発費	63	<b>15</b>

## 2022年2月期 主な研究開発案件

- DXやICTを活用した  
次世代に向けた生産体制構築



【2022年2月期～2024年2月期】  
**中期経営計画2024の進捗**  
次世代に向けた再構築 - Rebuild for the next -

## 長期ビジョン

持続可能な社会の実現に貢献するコトづくり企業として、  
創造的な発想と技術で人と社会に必要なカタチを提供できる企業

## 中期経営計画2024 [2022年2月期～2024年2月期]

### 【重点施策】

- 既存事業の事業構造再構築と環境事業への注力
- 健全経営によるステークホルダーとの良好な関係の構築・維持
- 技術・技能の伝承および次世代に向けた人材育成の推進
- 新しい生活様式における健康な職場づくりの推進
- SDGsを意識したガバナンスの強化

## 2022年2月期

### ◎ 黒字化達成

市場回復と各種施策効果

### △ 環境事業は若干遅延

市場反応も良く、各業界の  
開発案件を多数保有。

ただし、設備開発に若干遅延

## 2023年2月期

■ 想定以上の外部環境  
の変化

● 製造業の変革の兆し

新型コロナウイルス感染症拡大やウクライナ危機といった「変動性・不確実性」が、一層高まり、調達難や製造コスト増加への対応を強化

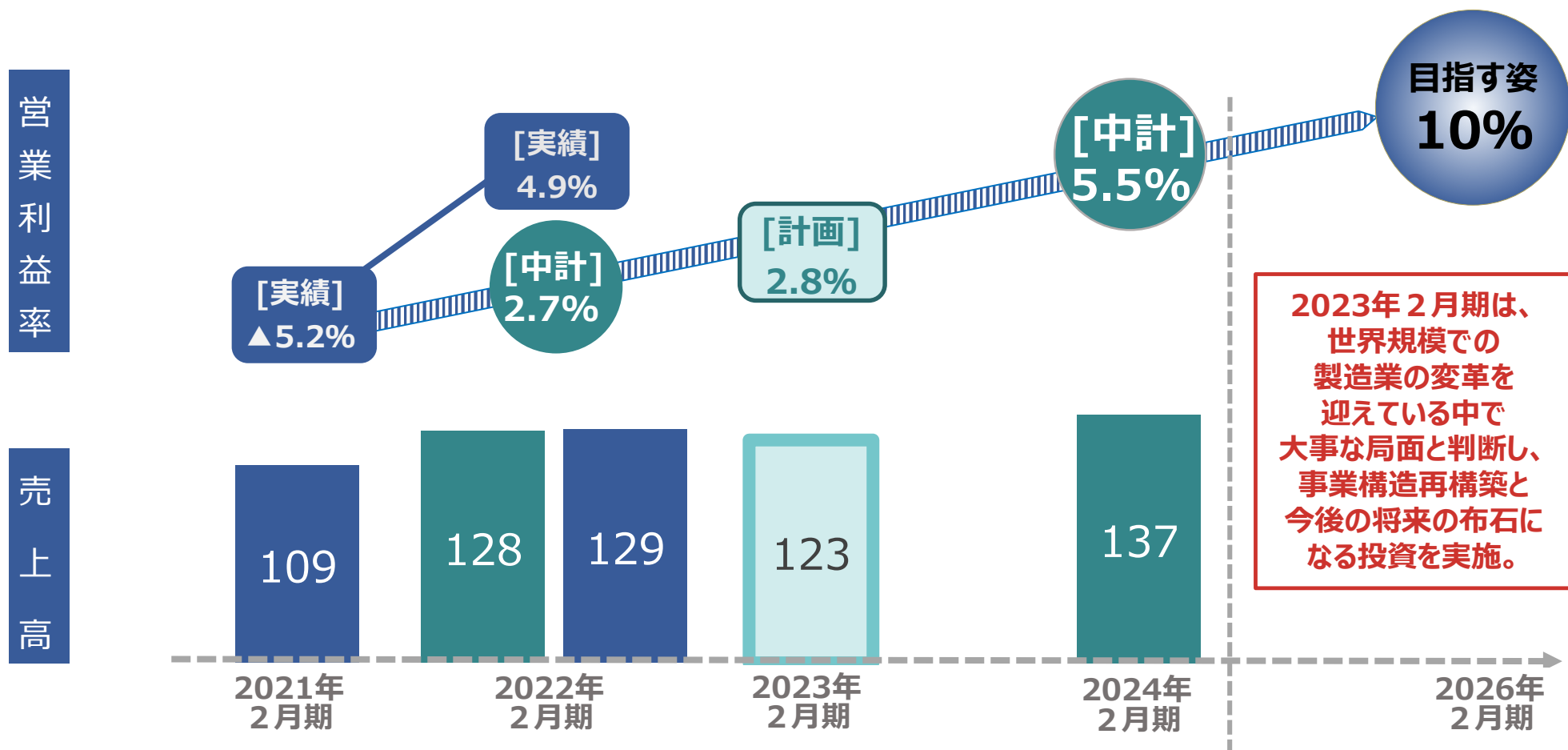
2022年2月期 期中環境要因	2022年2月期に 発生した事象	2023年2月期 見通し	当社の対応
新型コロナウイルス の影響	■ 原材料不足による 調達難や価格高騰	原材料の調達難 価格高騰は継続	■ 構成部品や材料の 調達コスト上昇への対応
	■ 物流増加による特に 海外でのコンテナ不足	物流増加は継続	■ 構成部品や材料の 納期遅れへの対応
半導体需要の 急速な増加	■ 調達難を勘案した 生産計画見直し ■ 設備納入の遅延	福島県沖地震の 影響も加わり、 調達難は継続	■ 市場動向を注視し、需要に 合わせた生産体制を維持 ■ サプライヤーチェーンを強化
原油の高騰	■ 液化天然ガスや原油 価格の上昇による 調達コスト増	原油をはじめとした エネルギー高騰の 継続	■ 製造コスト増加への対応
ロシア・ウクライナ情勢	■ 世界経済全体が 成長減速の陰り	経済への影響が 長期化	■ 市場動向など情報収集に 注力

**国内製造業はこの厳しい状況で2023年2月期上期に  
大きく鈍化・停滞するリスクを見込む**

事業分野	アイテム	市場変動因	■リスク ●機会
環境・エネルギー	産業用ガスタービン関連部品 遠心圧縮機関連部品	エネルギー需要	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コロナ影響による電力需要は依然として継続</li> <li>■ ロシア・ウクライナ情勢へのリスク懸念で各国、抜本的なエネルギー構築の見直し</li> <li>■ 新エネルギー・再生エネルギーシフトは需要旺盛もまだまだ課題あり</li> </ul>
	混合溶融技術	環境意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>● プラスチック資源循環促進法施行もあり、再資源化に向けた需要拡大</li> </ul>
航空・宇宙	航空機エンジン部品 航空・宇宙関連部品	旅客・貨物需要 保守・更新需要	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 新型コロナの影響により旅客需要は依然低調</li> <li>● 保守・更新部品の需要は一定数増加</li> </ul>
交通・輸送	セラミックス押出用金型 自動車プレス関連部品 自動車表面処理部品	自動車需要	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 半導体不足等の部品調達難を勘案した生産計画ならびに販売計画の見直し</li> <li>■ 材料価格の高騰による値上げ傾向</li> <li>● 次世代自動車の開発はさらに加速</li> </ul>
住宅	アルミ押出用金型	国内住宅設備需要	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 人口減少による新築戸数の減少</li> <li>■ 住宅価格高騰等による需要の減少</li> <li>● ZEH・ZEB等 省エネ対応の需要旺盛</li> </ul>
機械設備	デジタルサーボプレス機 プレス付帯設備	部品生産設備需要	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 経済成長鈍化による設備投資意欲の低下</li> <li>■ 構成部品の納期遅れ</li> <li>● 次世代開発に向けた案件は国・自治体からの補助金活用を含め依然として需要旺盛</li> </ul>

# 中期経営数値目標

- 中期経営数値目標は変更なし
- 外部要因と政策的投資により一時的に利益率低下も事業構造再構築と合理化の継続により目標達成を目指す



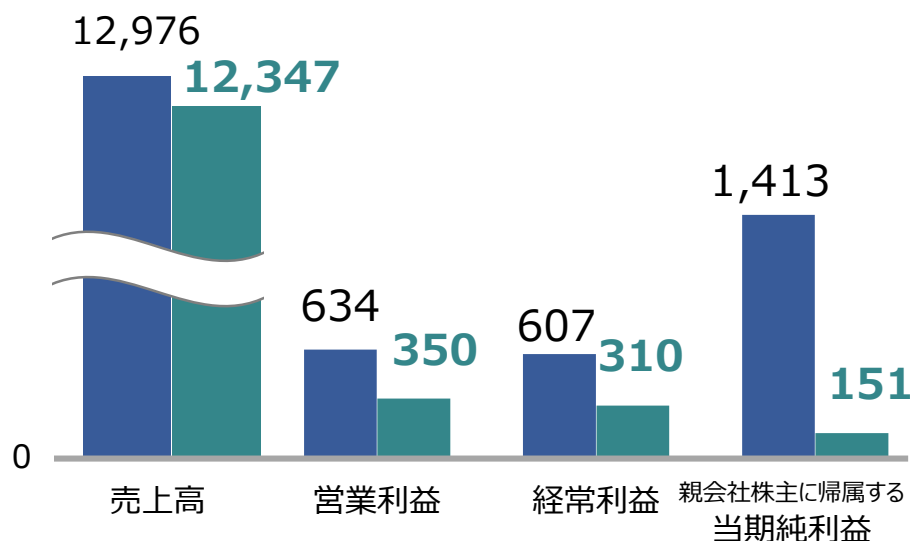


# 2023年2月期 通期業績予想



## ■ 減収および政策的な投資に伴う費用の増加により減益

■ 22年2月期実績    ■ 23年2月期計画



(単位：百万円)

	22年2月期実績	23年2月期計画	前期差	前期比
売上高	12,976	12,347	▲629	95%
営業利益	634	350	▲283	55%
経常利益	607	310	▲296	51%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,413	151	▲1,261	11%

(単位：百万円)

	23年2月期上期計画	23年2月期下期計画	<参考> 22年2月期上期実績	<参考> 22年2月期下期実績
売上高	5,676	6,671	6,427	6,549
営業利益	▲63	413	271	363
経常利益	▲90	401	269	337
親会社株主に帰属する当期純利益	▲46	198	183	1,230

# 2023年2月期セグメント別概要予想(連結)



## ■ 上期は国内市場環境が先行き不透明なことから厳しくなることを想定

(単位：百万円)

		22年2月期 実績	23年2月期 通期計画	前期差 増減	23年2月期 上期計画	23年2月期 下期計画
売上高	放電加工・表面処理	6,820	<b>6,485</b>	▲334	2,799	3,685
	航空・宇宙	1,785	<b>1,799</b>	+13	820	978
	交通・輸送	538	<b>297</b>	▲240	181	116
	環境・エネルギー	4,495	<b>4,388</b>	▲107	1,797	2,590
営業利益		622	<b>532</b>	▲89	78	453
売上高	金型	4,216	<b>4,064</b>	▲151	1,984	2,080
	住宅	2,744	<b>2,596</b>	▲148	1,259	1,336
	交通・輸送	1,471	<b>1,468</b>	▲3	724	743
営業利益		724	<b>772</b>	+47	359	413
売上高	機械装置等	1,939	<b>1,797</b>	▲142	892	905
	機械設備	1,430	<b>1,270</b>	▲159	670	600
	交通・輸送	509	<b>527</b>	+17	222	304
営業利益		200	<b>195</b>	▲5	77	117
全社費用		▲913	<b>▲1,150</b>	+236	▲579	▲570
全社	売上高	12,976	<b>12,347</b>	▲629	5,676	6,671
	営業利益	634	<b>350</b>	▲283	▲63	413

## 放電加工・表面処理

- 航空・宇宙関連は、航空機エンジン部品の一部アイテムの生産量が下期より回復。
- 交通・輸送関連は、飯山事業所を成田事業所へ集約するため一時的に生産停止。
- エネルギー関連は、産業用ガスタービン関連部品の上期受注の谷間、下期海外案件増加。環境事業は設備販売を見込む。

## 機械装置等

- 機械設備は、経済成長鈍化に伴う投資意欲低下を見込む。
- 交通・輸送関連は、前期並みと予想。新規アイテム獲得とシェアリングサービスに注力。

## 金型

- 住宅関連は、市場環境より国内・海外ともに低調と予想。生産改善に注力。
- 交通・輸送関連の市場は低調と予想するも、セラミックス押出用金型の大型アイテムの受注増加により前期並みを見込む。

**事業環境は厳しいが、  
着実に合理化を推進し  
利益目標達成を目指す**

## ■ 持続的な成長を達成するための強固な経営基盤を構築

厳しい経営環境にスピーディーに対応できる組織体制の構築

ESG・SDGsを意識したガバナンスの強化

ガバナンス改革を推進し、経営の有効性・透明性の向上

リソース・マネージメントの向上

既存事業の技術先進性を再確認、次世代に向けた人材育成の推進

## 重点事業

リソースを活かした収益改善	新技術・新素材開発市場 向けの販売戦略強化	長期の成長ドライバーを 目指し、環境事業拡大
航空機エンジン部品	デジタルサーボプレス機	混合溶融技術
	プレス付帯設備	

## 収益改善事業

選別受注および 生産体制の最適化	生産拠点統合による 生産体制強化	基盤事業の収益確保
産業用ガスタービン関連部品	遠心圧縮機関連部品	自動車表面処理部品
アルミ押出用金型		セラミックス押出用金型
		自動車プレス関連部品

## ■ リソースを活かした収益改善

### 取り組み状況

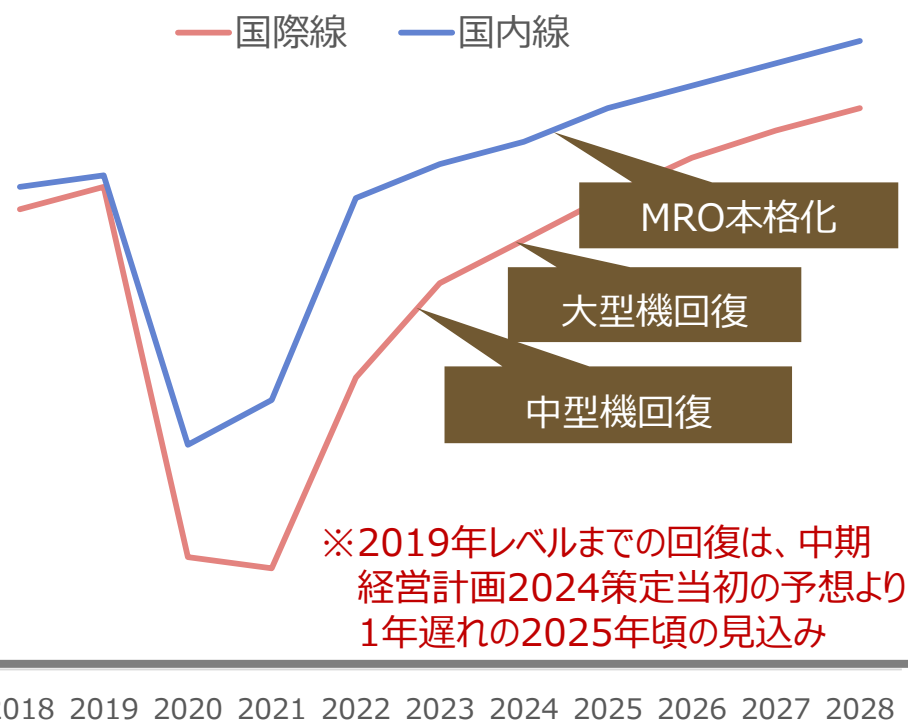
- 2022年2月期 黒字化未達
- 2023年2月期 物量は61期並みと予測。
- 2024年2月期黒字化にむけて、前期より進めてきた新規アイテムの生産体制を整備し、2023年2月期下期より収益に貢献。

### 今後の方向性

#### □ 主要サプライヤーとしてのポジションを盤石化

非常に高度な技術・品質が要求され参入障壁の高い航空宇宙分野で、技術・体制をより一層強化。

### 当社の市場予想



IATA「Tourism Economics Air Passenger Forecasts」  
(2021年11月)を参考に作成

## ■ 選別受注および生産体制の最適化

### 取り組み状況

#### □ 産業用ガスタービン関連部品の生産安定化

- 計画的な生産が可能となる受注方式へ切り替え

#### □ アルミ押出用金型の徹底した合理化推進

- 選別受注と顧客深耕の強化
- 製造コストの最適化、品質・供給の安定化
- データを活用し業務プロセスの合理化

### 今後の方向性

#### □ コア技術を高め他分野へ展開

- 産業用ガスタービン部品は、お客様の次世代エネルギーへの切り替えに貢献。
- アルミ押出用金型は、解析・設計能力を高め、産業分野のアイテム拡大を目指す。

#### 現在の当社技術適用箇所



ガスタービン部品(画像提供：三菱重工業㈱)

## ■ 新技術・新素材開発市場向けの販売戦略強化



2021年12月高機能セラミックス展にて  
新ラインナップ粉体成形用PLUS20発表

### 取り組み状況

#### □ マルチマテリアルに対応した製品・サービスの 拡充

- 新たな市場とした粉体成形への参入
- 外部リソース活用し、販売力強化
- リース会社とのレンタルサービス立ち上げ

### 今後の方向性

#### □ 次世代モノづくり改革に貢献

- DXを活用したサービスの拡充
- 生産ラインの省エネ化に貢献



## ■ 生産拠点統合による生産体制強化

### 取り組み状況

#### □ コスト削減策を推進

- 遠心圧縮機関連部品の2拠点生産を成田事業所へ集約
- 下期後半からの本格生産を目指す



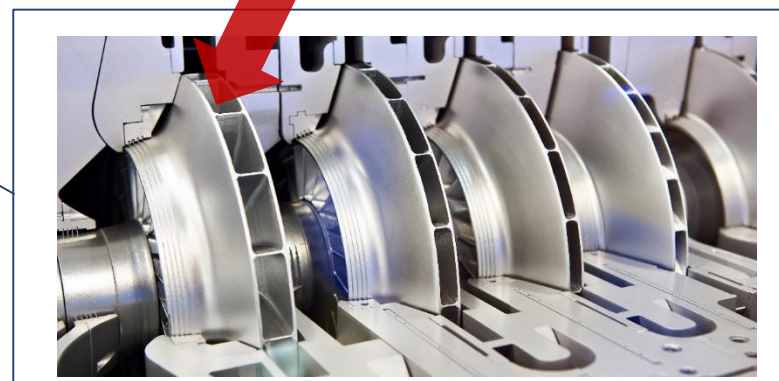
プラント関連設備

### 今後の方向性

#### □ 次世代エネルギー市場にリソース集中

- 水素・アンモニアなどの次世代エネルギープラント向け圧縮機の小型化・高出力化などのモデル採用に向けて技術確立・拡販の強化

#### 現在の当社技術適用箇所



遠心圧縮関連設備

## ■ 基盤事業の収益確保

### 取り組み状況

#### □ セラミックスハニカム押出用金型の大型対応強化

- 受注の安定化
- 消耗工具の海外購入を国内調達へ切り替え

#### □ プレス部品加工デジタル化推進

- 量産部品の品質向上、省人化

#### □ 表面処理部品の生産性改善

- 需要変動に合わせた生産体制を構築

### 今後の方向性

#### □ 創業以来の技術を集大成し新たなアイテム獲得を目指す

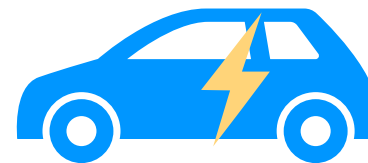
放電加工、金型製造、表面処理、プレス加工の技術を駆使し蓄積したノウハウから最適なソリューションを創出することで、他の業界も含め新たなアイテムの獲得を目指す。

#### 現在の当社技術適用箇所



ガソリン,HV

- ・排気ガス浄化装置
- ・アイドリングストップ機構エンジン



FCV

- ・燃料電池スタック

## ■ 長期の成長ドライバーを目指し、環境事業拡大

### 取り組み状況

#### □ 素材開発

➤ プラスチック資源循環に向け各材料開発

#### 3つの方向性

- ① 難処理プラスチックのリサイクル
- ② バイオマスを活用したバイオマス高充填のバイオマスコンポジット（複合材料）
- ③ 生分解性プラ・セルロースファイバー等新素材を活用する混合溶融材料

#### □ 設備開発

➤ 上記素材開発の成果を活かし、機能強化を図った新型混合溶融機の開発を推進

#### □ 製品試作

➤ 中核事業の押出成形技術を含む様々な製品試作・評価の実施

### 今後の方向性

■ 混合溶融機の販売、材料・製品試作で、2023年2月期より業績寄与へ



混合溶融機

- 原材料や成形メーカー、産学や自治体など戦略的パートナーシップの加速
- パートナー企業間でのコンソーシアムなど社会実装に向けての取り組み強化

## 設備投資 / 減価償却費

(単位: 百万円)

	22年2月期 実績	23年2月期 計画
設備投資	1,407	<b>1,400</b>
減価償却費	833	<b>800</b>

### 2022年2月期 主な投資案件

- 拠点集約による合理化推進
- 海外子会社の設備更新

## 研究開発費

(単位: 百万円)

	22年2月期 実績	23年2月期 計画
研究開発費	15	<b>43</b>

### 2022年2月期 主な研究開発案件

- DXやICTを活用した次世代に向けた生産体制構築
- 混合溶融技術の事業化に向けた案件

## 基本方針

株主様に対する利益還元を経営の最重要課題のひとつと考え、現在及び今後の事業収益をベースに将来の事業展開や経営体質の強化のために必要な内部留保資金の確保などを勘案し、継続的かつ安定的な利益還元を実施します

## 配当金

	配当金	配当性向
2021年2月期	無配	-
2022年2月期	20円	10.2%
<b>2023年2月期（予想）</b>	<b>20円</b>	<b>95.6%</b>

みんなの「知らない」をカタチにする

**HJK** 株式会社 **放電精密** 加工研究所

本資料に記載された目標や予測等、将来に関する記載が記述があります。  
資料作成時点での当社の判断に基づき作成したものであり、その情報の正確性を保証するものではありません。  
また、様々な不確定要素が内在しておりますので、実際の業績や結果とは異なる場合があります。